

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	: レバエール
会社名	: 共立製薬株式会社
住所	: 〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-11-5
担当部門	: 品質保証部
電話番号	: 03-3264-7196
FAX 番号	: 03-3264-0733
メールアドレス	: hinshitsu@kyoritsuseiyaku.com

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性

引火性液体	: 区分 3
-------	--------

自然発火性液体	: 区分外
---------	-------

健康に対する有害性

急性毒性	: 分類できない
------	----------

皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 分類できない
--------------	----------

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性	: 区分 2B
------------------	---------

呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない
---------------	----------

生殖細胞変異原性	: 分類できない
----------	----------

発がん性	: 区分 1A
------	---------

生殖毒性	: 区分 1A
------	---------

特定標的臓器毒性、単回ばく露	: 区分 3 (麻酔作用)
----------------	---------------

特定標的臓器毒性、反復ばく露	: 区分 1 (肝臓)
----------------	-------------

	: 区分 2 (中枢神経系)
--	----------------

環境に対する有害性

水生環境急性有害性	: 分類できない
-----------	----------

水生環境慢性有害性	: 分類できない
-----------	----------

絵表示またはシンボル



注意喚起語	: 危険
-------	------

危険有害性情報	: 引火性液体および蒸気
	: 眼刺激
	: 発がんのおそれ
	: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
	: 眠気またはめまいのおそれ
	: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の障害 (肝臓)

: 長期にわたる、又は反復暴露による臓器の
障害のおそれ（中枢神経系）

注意書き：

【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のものである着火源から遠ざけること。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護マスクを着用すること。
取扱い後は、よく手を洗うこと。

【応急措置】

気分が悪い場合及び暴露又は暴露の懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

直射日光を避けて密閉し、涼しい場所に保管すること。

【廃棄】

都道府県又は市町村条例等に従い処分すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分名	含有量(W/V%)
75%エタノール	13.0%
ブドウ糖	非開示
DL-メチオニン	
プロピオン酸ナトリウム	
サッカリンナトリウム	
塩酸チアミン	
リボフラビン	
塩酸ピリドキシン	残
水	

4. 応急措置

吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。必要に応じて医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	: 直ちに石けんで洗い落とし、多量の水で洗い流す。皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗う。コンタクトレンズを着用の場合、容易に外せる場合は外し洗浄する。必要に応じて医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに水で口の中を洗浄する。必要に応じて医師の手当てを受ける。

5. 火災時の措置

消火方法	: 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して消火する。 燃焼により有害ガスを発生する恐れがあるので、注意する。 消火活動は風上から行う。 周辺火災の場合、周辺の設備などに散水して冷却し、移動可能な容器は速やかに安全な場所に移動する。
適切な消火剤	: 水、泡、粉末、炭酸ガス
使ってはならない消火剤	: 情報なし

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項 保護具及び緊急時措置	: 作業の際は適切な保護具を着用し、飛散したものが皮膚に付着しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。
環境に対する注意事項	: 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材 回収、中和	: 飛散したものは、けいそう土などに吸着させて、掃き集めて空容器に回収する。漏洩した場所は、多量の水を用いて洗い流す。
二次災害の防止策	: 付近の着火源となるものを速やかに取り除くとともに消火剤を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い上の注意事項 技術的対策	: 皮膚に付けないように適切な保護具を着用する。
注意事項	: 開封後はなるべく早めに使用する。
保管上の注意事項 保管条件	: 直射日光を避けて密閉し、涼しいところに保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	: 取扱いについては、できるだけ密閉された装置、機器または局所排気装置を使用する。
管理濃度	: データなし
許容濃度	: データなし

保護具	
呼吸器の保護具	: 保護マスクを着用する。必要に応じて防じんマスクを着用する。
手の保護具	: 保護手袋を着用する。必要に応じて耐溶剤性手袋を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡を着用する。必要に応じてゴーグル型または保護面等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

性状	: 黄色澄明な液で特異臭がある。
pH	: 4.5～7.5

10. 安定性及び反応性

化学的安定性	: 通常の取扱いでは安定である。
危険有害反応性の可能性	: 特に情報なし
避けるべき条件	: 熱/火花/裸火/高温のものである着火源

11. 有害性情報

急性毒性	: データ不足のため分類できないとした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: データ不足のため分類できないとした。
眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性	: エタノールは区分 2B に分類されるが、配合量から製剤としても区分 2B とした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: データ不足のため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	: データ不足のため分類できないとした。
発がん性	: エタノールは ACGIH で A3 に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分 1A に分類した。
生殖毒性	: ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる (PATY (6th, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分 1A とした。
特定標的臓器毒性、単回ばく露	: エタノールは区分 3 に分類されているが、配合量から製剤としても区分 3 とした。

特定標的臓器毒性、反復ばく露	: ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する(DFGOT vol.12(1999))との記載に基づき区分1(肝臓)とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国FDAは3種類の治療薬を承認しているとの記述がある(HSDB (Access on June 2013))ことから、区分2(中枢神経系)とした。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの90日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている(SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012))。
----------------	--

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	: データ不足のため分類できないとした。
水生環境慢性有害性	: データ不足のため分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

廃棄する場合には、都道府県又は市町村条例等に従い処分すること。

14. 輸送上の注意

容器が転倒、落下、破損しないように充分注意するとともに、輸送前に破損や漏出がない事を確認する。

15. 適用法令

飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律	: アミノ酸入り混合飼料 A 飼料
毒物及び劇物取締法	: 非該当
労働安全衛生法	: 名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物 別表第9の61 エタノール $\geq 0.1\%$
消防法	: 非該当
化学物質排出把握管理法	: 非該当

16. その他の情報

引用文献

- ・ 自社データ
- ・ (独) 製品評価技術基盤機構 GHS 分類結果
- ・ 安全衛生情報、GHS 対応 モデル SDS 情報
- ・ 一般社団法人 アルコール協会 エタノールの引火点